

令和4年8月4日
(資料提供)

(事務担当)
所属名：農林総合研究センター 農業試験場
総合研究部 病虫害防除室
直通：257-6972

令和4年度病虫害発生予察 注意報第2号

今後、多発生が予想される水稻の斑点米カメムシ類の、発生時期や発生量、防除上の注意事項などについて掲載します。

1 注意報の内容

病虫害名：斑点米カメムシ類

(クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシなど)

対象地域：県内全域

水田侵入時期：7月中旬以降

発生量：多

2 注意報発表の根拠

- (1) 水稻ほ場における斑点米カメムシ類の発生は、40回すくい取り調査による成虫数が13.1頭(平年値：7.7頭)で平年の1.7倍多い。
- (2) 種類別では、クモヘリカメムシの成虫数が4.6頭(平年値：3.3頭)、アカスジカスミカメの成虫数が4.1頭(平年値：2.4頭)、ホソハリカメムシの成虫数が2.4頭(平年値：0.8頭)と多い。
- (3) 向こう1か月の気象予報(令和4年7月28日付、新潟地方気象台発表)によると、8月の気温は高いと予想されており、水田への侵入や加害が多くなると推測される。

3 防除上の注意事項

出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。

※ 農薬の使用に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止に留意する。

【参考資料】

はんてんまい
カメムシ類による斑点米について

1 斑点米とは

カメムシ類が稲のモミを吸汁することにより米粒に吸い跡（吸汁痕）が残り、斑点米と呼ばれる被害が発生します。

斑点米が米粒中に0.1%を超えて混入すると、検査等級が2等以下に格付けされ、生産者の収入が減少します。



斑点米

2 斑点米カメムシ類の生態について

カメムシ類は植物の種子を吸汁しており、雑草地や水田等を移動しています。

7月上旬頃までは、主に雑草地に生息して数を増やし、その後水田にも侵入して斑点米を発生させます。

斑点米カメムシ類は、歩いて水田に侵入する「歩行性カメムシ類」と、稲の穂が出ると飛んで水田に侵入する「飛翔性カメムシ類」に分けられます。

<飛翔性カメムシ類>

クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、
アカヒゲホソミドリカスミカメ等



クモヘリカメムシ



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ

<歩行性カメムシ類>

トゲシラホシカメムシ、オオトゲシラホシカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ等

3 被害防止対策

出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。